

3 / 2 9 (月) の発表

はじめよう、つづけよう。

「北海道スタイル」



～新型コロナウイルスに強い北海道をつくる～ 北海道スタイル

報道発表資料の配付日時 3月29日(月) 14時00分

発表項目 (行事名)	令和3年交通安全「宗谷管内独自運動」について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>例年、3月に「宗谷地区春の推進会議」を開催しているところですが、本年につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、対面による開催を見合わせ、書面にて実施し、次のとおり令和3年の宗谷管内における交通安全独自運動について、決定しましたのでお知らせします。</p> <p>1 初夏の車両事故防止並びに高齢者の事故防止推進期間 (令和3年(2021年)6月15日～6月25日)</p> <p>(1)「スピードダウン」 (2)「高齢者の事故防止」 (3)「飲酒運転の根絶」 (4)「全ての座席のシートベルト着用及びチャイルドシートの正しい着用の徹底」</p> <p>2 飲酒運転の根絶、冬型事故防止並びにシートベルト全席着用推進期間 (令和3年(2021年)12月1日～12月25日)</p> <p>(1)「飲酒運転の根絶」 (2)「冬型事故防止」 (3)「全ての座席のシートベルト着用及びチャイルドシートの正しい着用の徹底」 (4)「スピードダウン」</p>		
参考	<p>添付資料 別紙1 令和3年宗谷管内独自運動について 別紙2 令和3年度の北海道及び公益社団法人北海道交通安全推進委員会の主な交通安全推進事業 資料1 令和2年中の交通事故概況(北海道警察旭川方面本部提供) 資料2 シートベルト非着用死者の実態(北海道警察旭川方面本部提供)</p>		
報道(取材)に当たってのお願い			
他のクラブとの関係	同時配付	(場所)	
	同時レク		
担当 (連絡先)	<p>宗谷総合振興局保健環境部環境生活課 環境生活課長 瀧澤 克昌 TEL ダイヤルイン 0162-33-2919 (内線 2950) 担当者 道民生活係主事 前田 累伊 TEL ダイヤルイン 0162-33-2527 (内線 2965)</p>		

令和3年 宗谷管内独自運動について

令和3年における交通安全運動の推進方針に則るとともに、令和2年の宗谷管内の交通事故状況を踏まえ、管内独自運動として、次の項目を重点とする取組を実施する。

1 【6月】初夏の車両事故防止並びに高齢者の事故防止推進期間

(令和3年6月15日～6月25日)

例年、宗谷管内では、6月以降交通事故の発生が増加する傾向があること並びに行楽シーズンを迎え、自動車による速度の出し過ぎや運転機会の増加による事故の防止のため、毎月15日の「道民交通安全運動の日」から、「夏の交通安全運動」の開始前かつ「無事故の日」をまでの期間において、自動車による事故防止を重点とした運動を実施する。

また、例年、宗谷管内の交通事故者における高齢者の割合が高いこと、昨年、管内で飲酒運転による逮捕事案が発生し、未だ飲酒運転の根絶に至っていないこと、全道的にシートベルトの着用率が低いことから、併せて次の項目を重点とした取組を実施する。

- (1) 「スピードダウン」
- (2) 「高齢者の事故防止」
- (3) 「飲酒運転の根絶」
- (4) 「全ての座席のシートベルト着用及びチャイルドシートの正しい着用の徹底」

2 【12月】飲酒運転の根絶、冬型事故防止並びにシートベルト全席着用推進期間

(令和3年12月1日～12月25日)

全道、そして宗谷管内においても飲酒運転根絶に至っていない中、12月は飲酒の機会が増えるため、「冬の交通安全運動」期間終了後も引き続き、飲酒運転根絶の取組を実施する。

また、この季節は降雪や路面の凍結による衝突事故等の冬型事故発生の恐れがあること、全道的にシートベルトの着用率が低いことから、併せて次の項目を重点とした取組を実施する。

- (1) 「飲酒運転の根絶」
- (2) 「冬型事故防止」
- (3) 「全ての座席のシートベルト着用及びチャイルドシートの正しい着用の徹底」
- (4) 「スピードダウン」

令和3年度の北海道及び公益社団法人北海道交通安全推進委員会の主な交通安全推進事業

1 北海道の事業

- (1) 期別の交通安全運動（公益社団法人北海道交通安全推進委員会と連携して行う運動）
- (2) 高齢者運転免許自主返納サポート制度
道では、運転に不安を感じる高齢運転者が運転免許証を自主的に返納しやすい環境づくりをおこなうため自主返納をした道内在住の65歳以上の方が、協賛店で様々な特典・サービスを受けられる「北海道高齢者運転免許自主返納サポート制度」を令和2年10月1日から開始しました。
特典などを受けられる店舗（協賛事業者）には、協賛店ステッカーが貼られているほか、北海道のホームページ「北海道高齢者運転免許自主返納サポート制度」のページに店舗情報を掲載しております。
なお、特典・サービスを受けるためには、運転経歴証明書の提示が必要でになります。申請方法は、運転免許試験場若しくは警察署にお問い合わせください。
高齢者の免許自主返納に関する資料は、資料10をご覧ください。
- (3) 自転車シミュレーター、高齢歩行者シミュレーターの貸出事業

2 公益社団法人北海道交通安全推進委員会の事業

- (1) 飲酒運転根絶事業（北海道と連携して行う事業）
 - ① 飲酒運転根絶の日決起大会の開催
今年度は、7月13日（火）に、稚内市内での開催を予定しています。
詳細が決まりましたら、別途お知らせします。
 - ② 飲酒運転根絶研修会の実施
- (2) 地域連携型飲酒運転根絶事業
飲酒運転根絶！高校生メッセージコンクールを実施します。
- (3) 夜光反射材の着用効果実演会事業
暗くした会場で夜光反射材に懐中電灯の光を当て、効果を視認する「実演」事業で、参加者に啓発用の夜光反射材を配布し、夜光反射材の普及促進を図る。
当該事業の実施にあたっては、宗谷地区交通安全推進協議会事務局まで、ご連絡ください。
- (4) 飲酒疑似体験ゴーグル、飲酒運転根絶向け視聴覚教材の貸出

3 その他の全道で行っている事業

- (1) 交通安全啓発DVD及び紙芝居の貸出事業
（公益社団法人北海道交通安全推進委員会へ申込、紙芝居は宗谷地区交通安全推進協議会に申込となります。）
- (2) 交通遺児奨学生募集（公益社団法人北海道交通安全推進委員会へ直接申込）

令和 2 年中の交通事故概況

～ 死者数が交通事故統計の記録上 2 番目に少ない ～

1 交通事故の概要

- 令和 2 年中の北海道の交通事故による死者数は 144 人（前年比－8 人）で、北海道の交通事故統計の記録が残っている昭和 22 年以降最少となった平成 30 年の 141 人に次いで 2 番目に少ない。
- 発生件数は 7,898 件（前年比－1,697 件）で、物件事故を除く人身事故件数の記録が残っている昭和 41 年以降最少を 4 年連続更新した。
- 負傷者数は 9,043 人（前年比－2,003 人）で、1 万人を下回ったのは昭和 38 年（9,373 人）以来 57 年ぶりとなった。

【月別の死者数推移】

(人)

年別\月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和 2 年	7	10	9	8	10	10	15	16	19	11	11	18	144
令和 元年	5	4	10	11	12	11	16	16	19	21	15	12	152
前 年 比	+2	+6	-1	-3	-2	-1	-1	±0	±0	-10	-4	+6	-8

※「令和元年」は、平成 31 年 1 月 1 日から令和元年 12 月 31 日である。

2 交通事故死者の概要（144 人中）

- 発生時間帯別
14～16時が 27 人(18.8%)で最も多く、次いで 10～12時、16～18時が各々 21 人(14.6%)となっている。
14～16時では車両単独が 12 人(44.4%)、10～12時では正面衝突、車両単独が各々 7 人(33.3%)、16～18時では人対車両が 10 人(47.6%)で最も多い。
- 道路別
国道が 56 人(38.9%)で最も多く、次いで市町村道が 46 人(31.9%)となっている。
国道では正面衝突が 19 人(33.9%)、市町村道では人対車両が 19 人(41.3%)で最も多い。
- 事故類型別
車両単独が 47 人(32.6%)で最も多く、次いで人対車両が 38 人(26.4%)となっている。
車両単独の死者のうち、高齢運転者(65歳以上)による死者が 15 人(31.9%)となっている。
- 第 1 当事者の年齢層別
高齢運転者が第 1 当事者となる交通事故の死者が 46 人(31.9%) (65歳～69歳が 11 人、70歳～74歳が 13 人、75歳以上が 22 人)で最も多く、次いで 40 歳代が第 1 当事者となる交通事故の死者が 25 人(17.4%)となっている。
高齢運転者及び 40 歳代運転者による交通事故死者を事故類型別でみると、高齢運転者は車両単独が 15 人(32.6%)、40 歳代運転者は人対車両が 9 人(36.0%)で最も多い。
- 第 1 当事者の違反別
前方不注意が 37 人(25.7%)で最も多く、次いで最高速度が 27 人(18.8%)となっている。
また、飲酒運転を伴う交通事故死者は 10 人で前年比 3 人の増加となっている。
- 死者状態別
自動車乗車中(特殊車両含む)が 67 人(46.5%)で最も多く、次いで歩行中が 38 人(26.4%)となっている。
自動車乗車中死者のうち高齢者が 27 人(40.3%)、歩行中死者のうち高齢者が 24 人(63.2%)となっている。
二輪車(自動二輪及び原付)乗車中の死者が 25 人(17.4%)で、前年比 9 人の増加となっている。
- 死者年齢層別
高齢者の死者が 68 人(47.2%) (65歳～69歳が 10 人、70歳～74歳が 16 人、75歳以上が 42 人)で最も多く、このうち自動車乗車中(特殊車両含む)が 27 人(39.7%) (運転席 22 人、助手席 2 人、後部席 3 人)、歩行中が 24 人(35.3%)、自転車乗用中が 13 人(19.1%)、二輪(原付含む)乗車中が 4 人(5.9%)となっている。
- シートベルト着用状況別
自動車乗車中死者 67 人中、シートベルト非着用者は 37 人(55.2%)で、このうち 23 人(62.2%)はシートベルトを着用していれば助かった可能性が高い。

1 年別死亡事故発生件数・死者数

区分\年別	H22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	R元年	2年	過去平均	
												22年-R元年	27年-R元年
発生件数	203	183	184	178	157	168	149	144	130	148	136	164.4	147.8
死者数	215	190	200	184	169	177	158	148	141	152	144	173.4	155.2

2 月別死者数

年別\月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和2年	7	10	9	8	10	10	15	16	19	11	11	18	144
令和元年	5	4	10	11	12	11	16	16	19	21	15	12	152
前年比	+2	+6	-1	-3	-2	-1	-1	±0	±0	-10	-4	+6	-8

3 発生時間帯別死者数

\時間帯別	0-2	2-4	4-6	6-8	8-10	10-12	12-14	14-16	16-18	18-20	20-22	22-24
死者数	5	4	8	6	14	21	13	27	21	10	6	9
構成率(%)	3.5	2.8	5.6	4.2	9.7	14.6	9.0	18.8	14.6	6.9	4.2	6.3
前年比	+1	-6	+1	-6	-1	+1	-1	+9	-6	-6	+2	+4

4 道路別死者数

\道路別	国道	道	市町村道	高速道	その他
死者数	56	31	46	3	8
構成率(%)	38.9	21.5	31.9	2.1	5.6
前年比	-5	-7	+4	-4	+4

5 事故類型別死者数

\事故類型別	人車対向	自転車対向車	車両相互				車両単独	踏切
			正面衝突	追突	出会い頭	その他		
死者数	38	13	22	5	9	10	47	0
構成率(%)	26.4	9.0	15.3	3.5	6.3	6.9	32.6	0.0
前年比	-10	+5	-3	-2	-6	-1	+10	-1

6 第1当事者年齢層別死者数

\年齢層別	25歳未満	25-29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60-64歳	高齢者			歩行者等	
							65-69歳	70-74歳	75歳以上		
死者数	16	8	14	25	19	10	46	11	13	22	6
構成率(%)	11.1	5.6	9.7	17.4	13.2	6.9	31.9	7.6	9.0	15.3	4.2
前年比	±0	+1	-3	+9	-13	-1	±0	-4	+5	-1	-1

※高齢者の内訳の構成率は、総数に対する構成率

7 第1当事者違反別死者数

\違反別	酒酔い	最高速度	追越し等	歩行者妨害	信号無視	一時停止	過労運転	安全運転義務違反			その他
								操作不適	前方不注意	その他	
死者数	1	27	6	10	3	7	0	15	37	15	23
構成率(%)	0.7	18.8	4.2	6.9	2.1	4.9	0.0	10.4	25.7	10.4	16.0
前年比	+1	+19	+3	+5	-4	+1	±0	-4	-26	+2	-5

飲酒を伴う事故(酒酔い含む)
10
6.9
+3

※飲酒を伴う事故は、酒酔い、酒気帯び。基準以下、検知不能の合計であり、上記違反の内数(酒酔い除く)

8 状態別死者数

\状態別	自動車乗車	二輪乗車	自転車乗用中	歩行中		その他(踏切等)	
				高齢者	高齢者		
死者数	67	25	14 (13)	38 (24)	0		
構成率(%)	46.5	17.4	9.7 (92.9)	26.4 (63.2)	0.0		
前年比	-10	+9	+4	+8	-10	-11	-1

※「自動車乗車」には特殊車両を含み、「二輪乗車」には原付を含む

※「高齢者」の構成率は、各状態別(自転車乗用中、歩行中)に対する構成率

例～最高速度と酒気帯び
操作不適と基準以下

9 年齢層別死者数

\年齢層別	25歳未満	25-29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60-64歳	高齢者			
							65-69歳	70-74歳	75歳以上	
死者数	14	7	13	13	19	10	68	10	16	42
構成率(%)	9.7	4.9	9.0	9.0	13.2	6.9	47.2	6.9	11.1	29.2
前年比	-2	+2	+3	+2	+2	±0	-15	-5	+6	-16

※高齢者の内訳の構成率は、総数に対する構成率

10 自動車乗車中死者のシートベルト着用状況(67人中)

\着用状況	対象者	着用	非着用				着用不明
			(生存可)	運転中	(生存可)	同乗中	
死者数	67	29	37 (23)	24 (15)	13 (8)	1	
構成率(%)	100.0	43.3	55.2 (62.2)	64.9 (62.5)	35.1 (61.5)	1.5	
前年比	-10	-19	+9 (+3)	+2 (+1)	+7 (+2)	±0	

※生存可能な構成率は、非着用者の各状態別(運転中、同乗中)に対する構成率

北海道の交通事故発生状況の推移

年別	発生件数	死者数	負傷者数
昭和22年	357	150	418
23年	495	176	340
24年	624	157	565
25年	1,020	221	793
26年	1,280	247	1,057
27年	1,561	239	1,236
28年	2,458	279	1,753
29年	3,079	324	2,218
30年	3,513	341	2,714
31年	4,666	405	3,672
32年	5,215	419	3,958
33年	6,147	468	5,211
34年	6,798	573	5,788
35年	8,213	633	7,002
36年	11,732	638	9,044
37年	10,725	494	7,848
38年	11,203	618	9,373
39年	12,226	615	10,580
40年	14,171	631	12,817
41年	12,239	654	15,229
42年	15,900	656	20,640
43年	23,440	755	31,987
44年	29,693	832	42,026
45年	30,042	882	43,641
46年	27,104	889	38,879
47年	24,401	796	35,680
48年	22,667	728	33,165
49年	17,253	483	25,005
50年	15,971	487	23,038
51年	16,551	482	23,895
52年	16,467	475	23,626
53年	16,334	494	23,338
54年	16,747	549	23,515
55年	16,737	510	23,376
56年	17,330	501	24,097
57年	17,833	588	24,647
58年	18,326	618	25,022
59年	17,241	581	23,272
60年	18,995	560	25,223
61年	20,423	470	26,732
62年	21,141	471	27,540
63年	22,978	548	29,317
平成元年	25,330	659	32,457
2年	25,903	715	32,135
3年	26,034	573	32,002
4年	25,230	585	31,292
5年	25,399	595	31,341
6年	26,553	619	32,479
7年	27,606	632	33,294
8年	27,168	595	32,370
9年	25,759	613	33,361
10年	28,153	533	36,231
11年	29,566	536	37,733
12年	30,806	548	39,523
13年	30,531	516	39,281
14年	28,674	493	36,786
15年	28,811	391	36,602
16年	27,844	387	35,200
17年	28,384	302	35,389
18年	26,967	277	33,696
19年	23,582	286	29,204
20年	21,091	228	25,801
21年	19,503	218	23,855
22年	18,088	215	22,096
23年	16,395	190	19,705
24年	14,973	200	18,048
25年	13,722	184	16,247
26年	12,274	169	14,571
27年	11,123	177	13,117
28年	11,329	158	13,489
29年	10,815	148	12,673
30年	9,931	141	11,494
令和元年	9,595	152	11,046
2年	7,898	144	9,043

注1 昭和34年までは、軽微な被害事故(8日未満の負傷、2万円以下の物件被害)は含まない。
 2 昭和40年以前の件数は、物件事故を含む。

平成28年～令和2年

シートベルト非着用死者の実態（過去5か年）

警察本部交通企画課

全席シートベルトの確実な着用を！

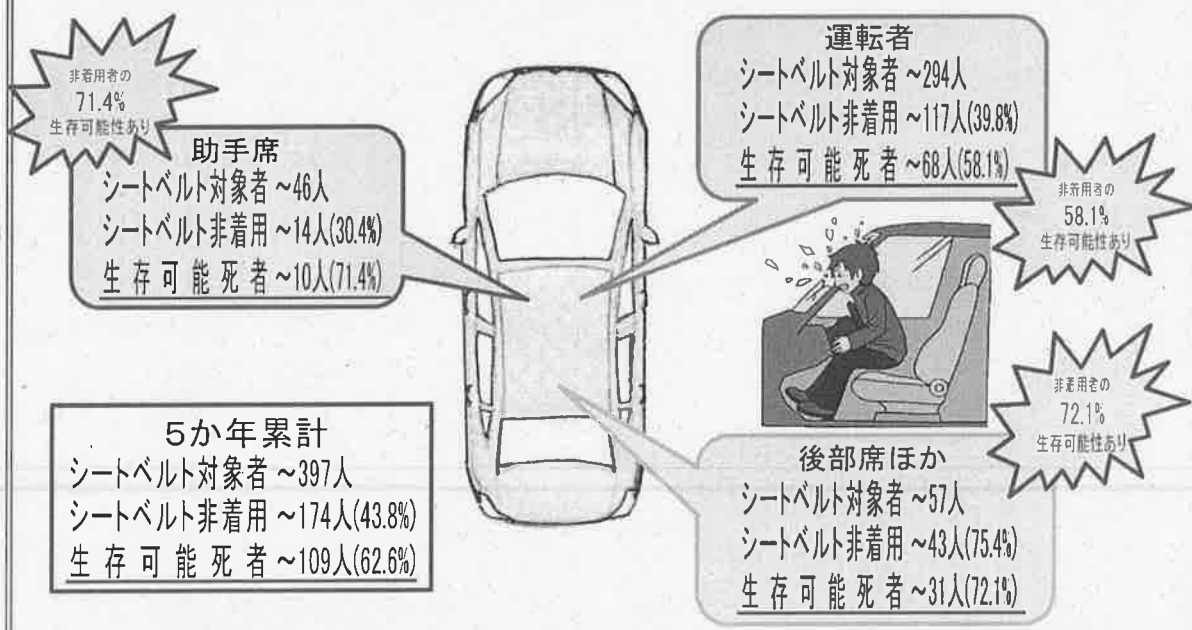


平成28年から令和2年までの5年間で、北海道内において発生した交通事故死者のうち、四輪乗車中死者のシートベルト着用・非着用状況、非着用死者の生存可能性状況は下表のとおりです。

	H28年	29年	30年	R元年	2年	合計
交通事故死者数	158	148	141	152	144	743
四輪乗車中死者数(シートベルト対象者数)	84	89	80	77	67	397
内訳						
運転者	64	68	54	59	49	294
助手席	6	9	16	6	9	46
後部座ほか	14	12	10	12	9	57
うちシートベルト非着用者数	40	37	32	28	37	174
内訳						
運転者	27	22	22	22	24	117
助手席	1	5	3	1	4	14
後部座ほか	12	10	7	5	9	43
生存可能性あり	21 (52.5%)	24 (64.9%)	21 (65.6%)	20 (71.4%)	23 (62.2%)	109 (62.6%)
内訳						
運転者	14 (51.9%)	13 (59.1%)	12 (54.5%)	14 (63.6%)	15 (62.5%)	68 (58.1%)
助手席	0 -	4 (80.0%)	3 (100%)	1 (100%)	2 (50.0%)	10 (71.4%)
後部座ほか	7 (58.3%)	7 (70.0%)	6 (85.7%)	5 (100%)	6 (66.7%)	31 (72.1%)

()内は、非着用者に対する生存可能者の割合

「生存可能性がある」とは、当事車両の破損状況等から生存空間が認められ、シートベルトを着用していたならば、生存していたと推測されることをいいます。



シートベルトで年間20人を超える命が救えた可能性があります。
車に乗ったらまず着用！全席確実な着用を！！